

同窓会 たより



千葉大学看護学部・
看護学研究科同窓会

〒260-8672 千葉市中央区玄鼻1-8-1

ホームページ <http://www.n.chiba-u.jp/dousoukai/index.html>

ご挨拶

同窓会会長 岡田 忍 (3期)

真冬の寒さに逆戻りしたような日が何日あったものの、3月も半ばを過ぎ、春が確実に近づいていることを感じる今日この頃ですが、会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか。たよりが会員の皆様のお手元に届く頃には、きっと新緑が目に眩しい季節になっていると思います。4月から新たに会員に加わった第39期の卒業生の皆さんも、新しい環境の中で、このたよりを手にされていることでしょう。

平成28年度は4年に1回の名簿の作成の年でしたが、無事名簿を発刊することができました。個人票の返送にご協力いただいた会員の皆様、名簿委員の皆様はこの場を借りてお礼を申し上げます。平成29年度も個人票の返送にご協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。

28年度は同窓会長として2つ嬉しい出来事がありました。1つ目は同窓会企画Life Work Balance に、シンポジストとして参加した30期台の卒業生の同期の方が多く参加してくださったことです。ちょうど子育てに奮闘している年代で、共通の話題も多く、とても和気あいあいとしたシンポジウムになりました。平成29年度は趣味編と題して、上手に趣味と仕事のバランスをとっている同窓生の話が聞けるとのことなので、是非多くの会員の皆

様の参加をお待ちしています。また、合わせて総会へもご参加いただき、同窓会への要望やご意見などをお聞かせください。

2つ目は準会員と同窓会のつながりを強化する取り組みとして平成25年度から開始した学部生の学術集会参加費の助成に今までで最も多い5名の学生から申請があったことです。しかも、そのうち3名は香港で開催された第20回East Asian Forum of Nursing Scholars への参加でした。入学時から大学院への進学を意識させるなど様々な学部の取り組みによって学部生の研究への関心が高まり、同窓会としてその支援ができたことは、とても喜ばしいことだと思っています。このたよりに報告が掲載されますので、是非ご覧ください。平成29年度は予算が足りなくなるくらい多くの申請があることを願っています。

平成29年度の活動方針として、以下の2つを提案いたします。同窓会活動のより一層の発展に向けて平成29年度の活動方針として以下の2つを提案します。

- ① 準会員の同窓会活動への参加や学術集会参加費助成応募者の増加などを通じて、準会員と同窓会とのつながりを強化し、卒業後・修了後に会員であることを意識してもらえるようにする。
- ② 評議員会、総会の出席者を増やし、会員の声と同窓会活動に反映されるようにする。

引き続きご支援を賜りますようどうぞよろしくお願いいたします。

ご挨拶

看護学部長・看護学研究科長 中村 伸枝

新年度を迎え、それぞれの皆さんが新たな気持ちでお過ごしのことと思います。医療の場や教育の場、地域や日本、そして世界と、どのような場に身をおいても、変化が大きく次々に新たなことが生じている現代では、1年の節目を実感することが以前より難しくなっているかもしれません。それでもなお、桜が咲き木々の若葉が映えてくると、何か新鮮で前向きな気持ちになるのは日本人の遺伝子のせいでしょうか。千葉大学看護学部の卒業生は、この3月で3,318名となり、大学院看護学研究科の修了生は、1,055名（博士後期課程178名、博士前期課程760名、修士課程117名）になりました。同窓生の輪が広がり、さまざまな場で皆様の活躍にふれることを大変うれしく、頼もしく感じております。

平成28年度に、千葉大学が「卓越した成果を創出している海外大学と伍して、全学的に世界で卓越した教育研究、社会実装を推進する取組を第3期（平成28～33年度）の機能強化の中核とする国立大学」として位置づいたことを受け、看護学部・看護学研究科も変化してきています。研究科全体で国際学会での発表や英文投稿を目指すようになり、英論文数は年間20編あまりと、6、7年前に比べ約10倍に増えています。また、研究力、学際性、国際力を強化した看護学部および看護学研究科のカリキュラム改革も進められています。千葉大学学内研究推進事業リーディング研究育成プログラムの支援を得た「超高齢社会における市民—専門職連携型エンドオブライフケア教育研究拠点」の形成や、

附属看護実践研究指導センターによる「看護学教育の継続的質改善（CQI）モデルの開発と活用推進」など新たなプロジェクトも展開しています。

一方で、さまざまな研究成果は看護の場に活用されているか、あるいは、看護の場で生じている課題は研究によって解決されているかと考えると、簡単な話にはなりません。研究においては、変数や影響要因が明確で、一定以上の数を集めて無作為化比較試験が行われたものが最もエビデンスレベルの高いとされています。しかし、看護の場では対象数が少なく複数の課題をもち、倫理的配慮から研究対象とはなりにくい人々への看護に大きな困難が生じています。また、人の心身や生活、人生をケアする看護においては、対象となる人々の年齢や健康状態、取り巻く環境による変化に加え、対象となる人と看護職の双方が相互関係のなかで変化していきます。ひとつ一つを変数と考えると途方もなく複雑になりますが、人は恒常性を保つことができ、かつ、集団で生きていく生物であり、困難な状況の中で案外何とかなっていることもあります。3月に沖縄で開催された文化看護学会では「なんくるないさー（何とかなるさ）」という素敵な言葉に出会いました。どこか適当で無責任にも聞こえますが、結構ポジティブで信頼感がベースにある響きでもあります。

看護学部・看護学研究科の同窓生は、本当に多様な活動をされています。この活動の一つ一つが現代社会や日本の看護学のあり様を反映しており、千葉大学看護学部・看護学研究科を支えて下さっていると感じております。今後とも、同窓会との連携を緊密にしながら教育、研究、社会貢献に努めていく所存です。引き続き、ご支援をよろしくお願いいたします。また、看護学研究科や附属実践研究指導センターをご活用いただけると幸いです。

平成28年度 総会報告

平成28年度の新役員が選出され、平成28年度の活動方針について、岡田会長より、①準会員が同窓会事業に参加する機会を増加させることによって、同窓会とのつながりを強化する。特に今年度は平成25年度より実施している準会員に対する学術集会参加費助成への応募者の増加をめざす②名簿発行年にあたることから、会員からの個人票の返送を促し、会員のデータを最新のものに更新する③会員の声と同窓会活動に反映されるよう、評議員会、総会の出席をうながすことが提案され、承認されました。また、総務委員会から、学部生の準会員に対して学術集会参加費助成を引き続き行うこと、同窓会掲示板コーナーを活用し、同窓会のイベントを学生に周知することが提案され、承認されました。名簿委員会からは、名簿作成・発送に向けた活動スケジュールについて、たより委員会からはたよりの発行、広報渉外委員会からは、入学生及び卒業生・修了生への記念品贈呈、40周年記念誌の販売を行うことが提案され、承認が得られました。また、国際プログラムの学生への同窓会入会案内は修了時に行う方向となり、国際プログラムの会員への対応の詳細については、今後検討していくこととなりました。平成28年度の活動予定に対して、平成28年度予算案が審議され、承認されました。

平成28年度の新役員が選出され、平成28年度の活動方針について、岡田会長より、①準会員が同窓会事業に参加する機会を増加させることによって、同窓会とのつながりを強化する。特に今年度は平成25年度より実施している準会員に対する学術集会参加費助成への応募者の増加をめざす②名簿発行年にあたることから、会員からの個人票の返送を促し、会員のデータを最新のものに更新する③会員の声と同窓会活動に反映されるよう、評議員会、総会の出席をうながすことが提案され、承認されました。また、総務委員会から、学部生の準会員に対して学術集会参加費助成を引き続き行うこと、同窓会掲示板コーナーを活用し、同窓会のイベントを学生に周知することが提案され、承認されました。名簿委員会からは、名簿作成・発送に向けた活動スケジュールについて、たより委員会からはたよりの発行、広報渉外委員会からは、入学生及び卒業生・修了生への記念品贈呈、40周年記念誌の販売を行うことが提案され、承認が得られました。また、国際プログラムの学生への同窓会入会案内は修了時に行う方向となり、国際プログラムの会員への対応の詳細については、今後検討していくこととなりました。平成28年度の活動予定に対して、平成28年度予算案が審議され、承認されました。

資料 1

平成28年度 決算報告

※1 予算との比較(計算式)収入『決算ー予算』、支出『予算ー決算』、△表記⇒マイナス、無印⇒プラス

正会員の収支		予 算	決 算	予算との比較※1
収入の部		計 8,532,003	計 8,542,829	計 10,826
1. 会費	計	1,344,000	1,320,000	△24,000
28年度新入会員終身会費(12,000円×110名)				
(内訳: 12N卒業生 92名 修了生18名)				
2. 広報・渉外委員会	計	15,000	5,000	△10,000
40周年記念誌代(内訳: 学生以外 1,250円×4冊)				
3. 名簿委員会	計	1,020,000	888,000	△132,000
名簿代販込(3,000円×296件)				
4. 利子	計	500	26	△474
総合口座 26円				
定期貯金口座				
5. 寄付	計	0	177,300	177,300
寄付 69件				
6. 繰越金	計	6,152,503	6,152,503	0
支出の部		計 8,532,003	計 8,542,829	計 △10,826
1. 理事会	計	484,000	218,751	265,249
1) 会議費				
2) 交際費				
内訳: 校友会費				
引当金				
玄鳥祭への寄付				
同窓会と準会員との交流活動援助				
玄鳥キャンパス留学生交流会への寄付				
大学院オープンキャンパス運営補助				
学部オープンキャンパス運営補助				
野尻先生お祝い(花)				
3) 準会員への支援	200,000	0	200,000	
4) 通信費	1,000	625	375	
5) 雑費(振込手数料等)	3,000	1,528	1,472	
6) データ処理(名簿購入者・寄付者登録リスト出力代)	0	39,926	△39,926	
2. 総務委員会	計	55,000	34,800	20,200
1) 会議費(交通費・茶菓子代)				
2) 通信費(評議員会開催通知代等)				
3) 人件費(総会託児アルバイト謝金5,000円×4名)				
4) 消耗品費(評議員連絡用封筒・紙代・託児用品代等)				
5) 雑費(振込手数料等)				
3. 名簿委員会	計	1,155,500	949,387	206,113
1) 名簿制作費(制作冊数350冊・初期期下代含)				
2) メンテナンス・データ処理				
3) 個人票関係費(督促ハガキ印刷発送費、後納郵便代)				
4) 謝金(個人票確認作業補助)				
5) 雑費(振込手数料等)				
4. たより委員会	計	859,341	826,291	33,050
1) たより印刷発送費				
2) 雑費(振込手数料等)				
5. 広報・渉外委員会	計	284,500	232,394	52,106
1) ホームページ更新費				
2) 会議費				
3) 印刷費(同窓会企画周知用チラシ印刷・三つ折代・送料含)				
4) 渉外費				
内訳: 卒業式記念品				
同窓会企画謝金4名				
同窓会企画(シンボジスト3名) 交通費				
退官記念品(舟島先生、岩崎先生)				
5) 消耗品費	3,000	108	2,892	
6) 人件費	10,500	0	10,500	
7) 通信費	3,000	0	3,000	
8) 雑費(振込手数料等)	4,000	864	3,136	
6. 予備費	計	5,693,662	6,281,206	△587,544

平成28年度 千葉大学看護学部・看護学研究科同窓会の会計監査を実施した結果、収支共に正当であることを認めます。

平成29年4月5日

監査

新住淑子
小川純子

資料 2

平成29年度 予算案

収入の部		計	7,696,206
1. 会費			
1) 総経金			
2) 新入会11会費(¥12,000×110名)(学部生90名、修了生26名)			
3) 利子			
2. 広報・渉外委員会			
1) 40周年記念誌代			
内訳: 学生(院生含) 500円×5冊			
学生以外 1,000円×5冊			
3. 名簿委員会			
1) 名簿購入見込(¥3,000×5名)			
支出の部		計	7,696,206
1. 理事会			
1) 会議費			
2) 交際費			
<内訳>			
校友会費: 50,000円			
弔慰金: 50,000円			
玄鳥祭への寄付: 50,000円			
同窓会と準会員との交流活動援助: 40,000円			
玄鳥キャンパス留学生交流会への寄付: 50,000円			
学部・大学院オープンキャンパス運営補助: 60,000円			
3) 準会員への支援			
<内訳>			
学部学生への学術集会参加費助成(上限10,000円/名×20名見込み)			
4) 通信費			
5) 雑費(振込み手数料等)			
2. 総務委員会			
1) 会議費(交通費・茶菓子代)			
2) 郵送費(事務連絡通信費)			
3) 人件費(総会託児アルバイト謝金5,000円×2名分)			
4) 消耗品費(評議員連絡用封筒・紙代・託児用品代等)			
5) 雑費(振込み手数料等)			
3. 名簿委員会			
1) 名簿制作費(制作冊数400冊・初期期下代含)名簿制作年度のみ			
2) メンテナンス・データ処理			
3) 個人票関係費(督促ハガキ印刷発送費、後納郵便代)			
4) 謝金(個人票確認作業補助10時間分)			
5) 雑費(振込み手数料等)			
4. たより委員会			
1) たより印刷発送費			
2) 雑費(振込み手数料等)			
5. 広報・渉外委員会			
1) ホームページ更新費(5,000円/更新1回×9回分)			
2) 会議費			
3) 印刷費(同窓会企画周知用チラシ3,000部・三つ折代含)			
4) 渉外費			
<内訳>			
卒業式記念品(バラ 学部生100名・院生40名) 55,000円			
同窓会企画 謝金(あのはな音楽部) 5,000円			
同窓会企画 謝金(5,000円×シンボジスト4名) 20,000円			
同窓会企画 交通費(県内より4名) 12,000円			
退官記念品(10,000円/名) ※本年度予定なし			
5) 消耗品費(卒業式記念品に貼るテプラテープ代 他)			
6) 人件費(卒業式記念品準備作業10時間分)			
7) 通信費			
8) 雑費(振込み手数料等)			
6. 予備費			
		計	5,670,865

Curio(キュリオ) 千葉大学校友会SNSの 入会方法

1. <http://www.chiba-u.ac.jp/sns/>を開き、[入会案内はこちら](#)をクリックし、『Curio』入会申込書(正会員用)』より、入会申込書の書式をダウンロードする。
2. 入会申込書に必要事項を記載し、本人であることを確認できる書類(運転免許証、健康保険証など)のコピーとともに、校友会事務局まで郵送かFAXで送る。
<送付先> 〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町 1-33 FAX 043-284-2550 千葉大学校友会事務局
3. 校友会事務局で正会員の資格を持っていることを確認したうえで、『Curio』への登録を行う。
4. 登録が完了したら、メールで連絡をする。

平成29年度 同窓会総会のご案内

新緑の候、会員の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。今まで以上に多くの皆様のご参加、ご意見をお待ちしております。

日時 **平成29年 7月2日 (日)**
14時10分～

会場 **看護学部 第一講義室 (2階)**
千葉市中央区玄鼻1-8-1

*場所は、看護学部管理棟正面玄関等、各入口に掲示します。

内容 平成28年度事業報告、決算報告、平成29年度役員選出、活動方針、予算案、その他

***総会出欠に関しまして、同封のはがきにご記入の上、ご返送ください。**

＜総会・企画開催中の託児について＞

総会・企画開催時間中 (13:00～15:20)、アルバイト学生 (看護学部生) による託児を行う予定です。ご希望の方は、同封のはがきに必要事項をご記入の上、ご返送ください。当日のお申込みはできません。料金は無料ですが、申し込み後にご都合が悪くなられた場合は、6月23日 (金) までに下記の係までご連絡ください。なお、同日のおやつやお気に入りの玩具等があればお持ちください。

係：渡邊 (20期)

連絡先：watanabemiwa@faculty.chiba-u.jp

平成29年度 総会議案

千葉大学看護学部・看護学研究科同窓会は、正会員に39期卒業生を迎えました。今後ますます同窓会活動が活性化するように、平成29年度の活動方針は、①準会員の同窓会活動への参加や学術集会参加費助成応募者の増加などを通じて、準会員と同窓会とのつながりを強化し、卒業後・修了後に会員であることを意識してもらえるようにする②評議員会、総会の出席者を増やし、会員の声と同窓会活動に反映されるようにする、の2つを提案します。

平成28年度決算報告書は資料1に、平成29年度予算案は資料2に示します。また、新役員案を資料3、新委員会案を資料4に示しました。評議員会から継続して会長として岡田忍氏を推薦します。また、副会長に引き続き大月恵理子氏、石橋みゆき氏を推薦します。

資料3 平成29年度 千葉大学看護学部・看護学研究科同窓会 新役員案

() は卒業期

会 長 岡田 忍 (3)	8期 湯浅美千代 山倉 美典	20期 長瀬明日香 渡邊 美和	30期 佐野 元洋 渡邊 賢治
副会長 大月恵理子 (6)	9期 荻野 雅	21期 菅谷 綾子 時田 礼子	31期 屋久 祐介 吉田 真美
石橋みゆき (14)	10期 錢 淑君	22期 山下 亮子 高橋 良幸	32期 戸田由利亜 橋内 伸介
監 事 和住 淑子 (10)	11期 野崎 章子 坂上 明子	23期 榊原理恵子 長谷川智子	33期 伊藤真理子 松戸 麻華
小川 純子 (15)	12期 末永 香 島田 広実	24期 小川 俊子 秋山 愛	阿部由喜湖
会 計 岩瀬 靖子 (21)	河部 房子 石丸 美奈	25期 伊藤 明子 守屋 奈生	34期 上平 美和 能川 琴子
戸田由利亜 (32)	13期 荒屋敷亮子 末永 由理	26期 鈴木 和也 内海加奈子	後藤 靖江
評議員	14期 石川かおり 石橋みゆき	27期 島村 敦子 鉄矢 朋子	35期 荻野穂奈美 霜村 菜奈
1期 伊藤 隆子	齊藤しのぶ	28期 鈴木さと美 宮川 祐子	田中 貴大
2期 田中 裕二 中村 伸枝	15期 大塚 千春 前原 邦江	29期 鈴木 悟子 太田 愛	36期 川島 悠佳 藤島 佳奈
3期 岡田 忍	16期 新井 典子 飯島 久美	太田 潤	37期 工藤ひかり 田近 祐子
4期 島田 尚江	17期 北島 美奈 松林 美子		38期 富田 千尋 矢崎 萌子
5期 酒井 郁子 本田 彰子	18期 神津 三佳 中嶋 秀明		39期 森元 花織 大和田理恵
6期 見玉三枝子 遠藤 恵子	永田亜希子		池田 結
7期 亀崎 路子	19期 藤本 紀子 齊藤 千晶		修了生 仲井 あや

資料4 平成29年度 千葉大学看護学部・研究科同窓会 新委員会案

() は卒業期

総務委員会	委員長 渡邊 美和 (20)	たより委員会	委員長 永田亜希子 (18)
	副委員長 阿部由喜湖 (33)		副委員長 河部 房子 (12)
名簿委員会	委 員 坂上 明子 (11) 佐野 元洋 (30)	広報・渉外委員会	委 員 黒田久美子 (10) 金井 友佳 (29)
	太田 愛 (29)		太田 潤 (29) 池田 結 (39)
	委員長 雨宮 歩 (26)		委員長 時田 礼子 (21)
	副委員長 小川 俊子 (24)		副委員長 石丸 美奈 (12)
	中村 伸枝 (2) 齊藤しのぶ (14)		委 員 神津 三佳 (18) 能川 琴子 (34)
	野崎 章子 (11) 仲井 あや (修)		山下 亮子 (22) 大竹由希子 (34)
			渡邊 賢治 (30) 田中 貴大 (35)
			小村 文乃 (33) 姫野 雄太 (準)

学術集会参加報告

平成25年度より、学部生の準会員に対して学術集会の参加費を助成しています。平成28年度は4名に対して助成しました。平成29年度も助成を継続し、多くの学部生が学術集会に参加できるよう広報に力を入れていく予定です。

【学術集会参加報告】

氏 名： 関 間 愛 （3年次生）

参加学会： The 20th East Asian Forum of Nursing Scholars 場所： Regal Riverside Hotel （香港）

初めて国際学会に参加し、その刺激的な雰囲気を感じることができた。そこには、言葉や文化的背景が異なる看護専門職が一堂に会し、看護を一つの学問として捉え、積極的に議論を展開し交流する姿があった。未だ日本には浸透していない革新的な取り組みや新たな制度に関する発表を拝聴し、看護がもつ無限の可能性を感じることができた。ポスター発表会場では多くの研究者たちが国内外問わず共同研究を行い、その成果を発表されている姿に強い感銘を受けた。



また、今シンポジウムで指定発言者として発言する機会をいただき、貴重な体験をすることもできた。事前に学内での予演会を行い、先生や友人たちから意見やアドバイスをもらえたことで、当日は緊張しながらも自信をもって発表することができた。

ある研究者の方が“Think Globally, Act Locally”と発言されていたことが印象的であったが、今後も世界を見据えた自分のキャリアについて考えつつ、実習や日々の学習、卒業研究等に地道に取り組んでいきたいと思った。そして当学部が掲げる「ナース・サイエンティスト」に少しでも近づけるように努力したいと感じた。

2016年度 亥鼻祭のご報告

2016年度亥鼻祭実行委員会委員長 医学部4年 宇津野 瞳

2016年11月5日（土）、11月6日（日）の2日間に渡りまして、第14回亥鼻祭を無事開催できたことをご報告いたします。今年度は両日も晴天に恵まれ、約2,000名の来場者の方々にお越し頂きました。

今年度の亥鼻祭のテーマは“One for all, all for one.”といたしました。直訳すると、「一人はみんなのために、みんなは一人のために」という意味ですが、学生間の結束はもとより、より一層地域に根差した学園祭となるように、との意味を込めました。

当日の様子についてですが、記念講堂前広場では、ステージ上での演奏やダンスサークルによる出し物、部活ごとの出店テントで賑わっておりました。看護学部棟内では今年も様々な企画が催されました。例年一番人気の身体ふしぎ発見という企画では、超音波検査を実際に使った実演や、スパイロメーターを使った呼吸機能測定、生の動物の臓器を使った循環器系の説明などを行い、より現実的に即した医療現場をお客様に親しんで頂けたと思います。



看護ノススメ企画では看護学部の学生が日頃の勉強の成果をまとめ、来場者の方々に看護の現場について解説しておりました。薬学部棟では、BLSを学べる応急救護体験ブースや、卒業生の方々による若手医療職の生の話を聞けるブースが開かれておりました。どの企画も来場者で賑わい、日頃の感謝を伝える場所として盛況したと考えております。

今年度も亥鼻祭を開催することができましたのも、同窓会の方々をはじめ、地域の方々や保護者の方々のご理解・ご協力のおかげでございます。この場をお借りして、応援して下さいました皆様に深く感謝申し上げます。

平成28年度 同窓会企画報告

Life Work Balance

—自分らしく暮らす—



開催概要

日 時：平成28年6月25日（土） 13:20～15:00

場 所：千葉大学看護学部 第一講義室

多くの同窓生が、それぞれの道で、模索しながらも自分らしく暮らしていると思います。そこで平成28年は、自分の暮らしを大切に、楽しみながら働いている人達をお招きしました。プライベートを楽しむために、仕事の息抜き、家族との協力等についてお話を聞き、縦横の交流を深められるシンポジウムを実施いたしました。

【参加いただいたシンポジストの皆様】

時田 征人	群馬パース大学保健科学部	（配偶者：旧姓 渡邊礼子、21期）
渡邊 賢治（30期）	東京女子医科大学看護学部	（配偶者：旧姓 青木絵美、30期）
市川 拓也（34期）	千葉大学医学部附属病院	（配偶者：旧姓 塚本春香、34期）



参加者からの声

- ・今は職から離れていますが、みなさんのお話を聞き、また復帰したいと思いました。シンポジストの方々は素晴らしいなと思いましたし、参考にさせていただきます。
- ・多くの同窓生、準会員も参加してくれて良かったと思います。交流会でも期を越えて楽しく話がはずみました。
- ・実際に働きながらご夫婦でどんなコミュニケーションをとって協力し合っているのか、またそれが仕事をする上でどれだけ支えになっているかが聞けて、私も実践出来たらと思いました。
- ・実習担当教員から情報を得て参加しました。看護職ならではのワークライフバランスについて聞けて良かったです。（学部生）
- ・先生からのおすすめで参加しました。また機会があれば参加したいです。（学部生）

平成28年度は、30名の方が参加してくださいました。中でも、学部生が3名、30～38期の方が15名参加してくださり、本当に嬉しく思います。企画に参加してくださった皆様、当日運営にご協力くださった皆様に改めて厚く御礼申し上げます。今後も、学部生も参加しやすく、且つ様々な年代の方と交流できるような企画を考えていきたいと思っています。ご意見、ありがとうございました。

平成28年度広報渉外委員一同

委員長：時田 礼子（21期） 副委員長：鈴木 悟子（28期） 委員：田中 貴大（35期）、大竹由希子（34期）、能川 琴子（34期）、小村 文乃（33期）、橋内 伸介（32期）、渡邊 賢治（30期）、山下 亮子（22期）、神津 三佳（18期）、石丸 美奈（21期）

「看護教育学」と歩んだ24年

舟島 なをみ

同窓会会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか。平成29年3月31日をもちまして、私は千葉大学を定年退職させていただくに至りました。千葉大学に就業した期間は、24年間、およそ四半世紀を千葉大学で過ごしたことになります。

この24年間、特別な何かを行ってきたという感覚はありません。学士課程・博士前期後期課程の学生に「看護教育学」関連科目の授業と研究指導を行い、組織運営に関わりつつ、時間を捻出し研究を継続し、それらを国内外に発表するとともに知識体系として整理する、この反復でした。しかし、この活動の反復の中で、1979年、千葉大学に産声を上げた「看護教育学」という学問は大きく発展しました。その根底には、看護教育学の初代教授である見藤隆子先生、杉森みどり先生が築いて下さった基盤があります。また、1999年、杉森先生が定年退職後、教授に着任し、30人の修士、19名の博士を輩出し、その多くが修了後も千葉大学に研究生として身分を確保し、研究を継続しました。修了生とともに産出した知識が「看護教育学」の知識体系を発展させていることは言うまでもありません。

このように整理してみますと、一つの学問が学問として成立するために必要な過程が見えてくるような気がいたします。この過程には、4つの段階が含まれ、この段階とは「第1段階：学問基盤形成の時期」「第2段階：学問基盤補強の時期」「第3段階：学問普及の時期」「第4段階：学問発展の時期」です。「看護教育学」は、現在、第3段階、第4段階に到達しており、多くの看護教育機関、医療機関等が千葉大学大学院看護学研究科の知識、技術を活用して下さり、さらなる知識、技術の開発を要望して下さっています。また、社会情勢が刻々と変化する中、初期に開発した知識や技術のリメイクの必要性にも直面するようになっており、この過程は終結することのない過程であると感じております。また、この過程は、「研究」の継続が必要不可欠であり、その研究は現状と未来を怜悯な視点で見据え、それに基づき構想、展開される必要があります。さらにこの活動は、千葉大学大学院看護学研究科が養成を目指すナースサイエンティストの重要な役割の一つであり、千葉大学大学院看護学研究科だからこそ担える役割の一つであると確信しております。

私は千葉大学での職務は終了いたしますが、一研究者として、もう少しの間、看護教育学研究を継続いたします。現在、看護基礎・継続教育の場における医療事故防止に向けた教育システムの開発を目指し、3年後には、その結果を著書として出版する予定でおります。同時に、杉森みどり先生との共著にさせていただいている「看護教育学第6版」の改訂も予定しております。

皆様の卒業もしくは修了した千葉大学看護学部・看護学研究科は、「看護教育学」専門領域のみならず、全ての領域がこのように活発な研究を展開し、看護学の知識体系の構築と発展を目指しております。全国で活躍なさっている同窓生の皆様、お忙しい日々とは存じますが、時には、母校を思い出し、多様な機会を活用し、母校に戻っていただきたいと願っております。

千葉大学看護学研究科のますますの発展とともに、それを支える看護学部・看護学研究科同窓会の活発な活動を願っております。また、退職を祝い、同窓会から素敵なプレゼントをいただきました。紙面をお借りし、御礼申し上げます。

特集 兼松先生を悼んで

昨年6月に、本学の小児看護学の教授を務められた兼松百合子先生がご逝去されました。同窓会を代表して哀悼の意を表します。

一昨年の40周年記念集会では、元気なお姿を拝見しておりましたので、訃報に接し、多くの卒業生の皆さまが、驚きと哀しみで心がいっぱいになったことと思います。

今回、2015年9月20日に、兼松百合子先生が千葉大学看護学部40周年記念集会に参加された後、2期中村さんに宛てたメールに含まれていたメッセージを、ご親族のご承諾を得て、掲載しました。

また、兼松先生と縁の深い同窓生2名の方から、原稿を寄せていただきました。

兼松先生からのメッセージ

先日の千葉看護学会、40周年記念事業から、はや1週間が過ぎました。40年あっという間で、昔のような気分になったり、現在のみなさまのご様子から、40年経ったことに感動したりして帰ってきましたが、後で記念誌を読んで、特に初期のことがつぶさに思い出されました。看護学部として、また看護学研究科として確立するために模索を続けたと思いました。自分の持ち場で、よりよいと思うことを勇気をもってやってきたと思います。その成果が集積されて卒業生の活躍を支えていると思います。千葉の卒業生は看護観がしっかりしている、実践志向で地道、人間的に信頼できるといわれると思いますが、教員はみんなそのようなことを心がけていると思います。

千葉大では比較的早く学部、研究科が完成したので、40年間あまり変化させずに来たと思います。新設大学では新設の時点で将来に向け構想を練ることもあると思います。千葉大の従来の組織はそれなりにわかりやすいけれど、2015年度からのものを見ると、確かに先進的なものが感じられ、グローバル化や国際化に通じるようにも思います。内容を盛っていくと更に具体的に進むと思います。最近は諸外国の大学の分野の編成やカリキュラムを見ないのでわかりませんが、参考になるかもしれませんね。

兼松百合子

兼松先生は、私にとって学生時代の大切な恩師のおひとりであり、助手から助教授時代の上司でもあります。

学生時代の思い出は、やはり「小児保健学」のご講義です。先生は、穏やかな笑みを浮かべながら、小さなお声でやさしく、そして熱意を込めて授業をしてくださいました。また当時、先生は単身赴任でお子さんの育児をされており、学生を含めての集まりにお子さんを連れていらしたこともありました。その時の先生とお子さんのほのぼのとした様子が今でもはっきりと目に浮かびます。学生の私にとって、ふだんとは異なる母親としての先生の一面が垣間見え、ご教授くださる小児看護学とのつながりを感じた瞬間でした。

助手時代の思い出のひとつは、先生の入念で綿密な授業準備です。先生は常に最新のデータを用いた資料を準備され、教科書にとらわれず、学生に知的な刺激を与える講義を展開されていました。臨床経験を経て教員としての一步を踏み出したばかりの私にとって、改めて聴講する先生のご講義は、臨床での体験が整理・統合される機会にもなりました。

千葉大学で通算12年間にわたって先生と仕事をさせていただく中で、研究活動にも数多く関わらせていただきました。入院児の遊びに関する研究では、千葉大学医学部附属病院小児病棟で「プレイルームにおける遊びの時間」の実践、糖尿病の子どもと家族への支援に関する研究の一環としてのサマーキャンプでの活動等々、先生は、お忙しい時間を縫って子どもやご家族と関わる時間をとても大切にしていっていただきました。そしてそれらの活動を研究としてまとめ、次の実践や教育に活かすというサイクルを繰り返される先生の姿勢は、先生のもとで学ぶ学部生や大学院生に着実に受け継がれていると感じます。

先生は1998年に千葉大学を退職され、岩手県立大学看護学部の学部長に就任されました。その前年、開設準備に心血を注がれる先生のお姿に、当時の私は、先生がいらっしゃらなくなることの寂しさや不安に加え、岩手県立大学に対する『やきもち』にも似た気持ちを抱いたことが思い出されます。私は、1999年に開学3年目の宮城大学に着任しましたが、東北地方の公立大学という共通点もあり、先生には折に触れて学部教育や大学院教育、大学運営についてアドバイスをいただき、時には愚痴も聞いていただきました。

これまで兼松先生には、常に卒業生のひとりとして暖かく見守り、導いていただきました。そしてこれからも、兼松先生は、私にとって教育者・研究者としてのお手本であり続けることと思います。

兼松先生を悼んで

千葉大学看護学部 錢 淑君（10期生）

学術に対する厳格な姿勢

昭和59年に千葉大学看護学部に入學した私は、学部を卒業後、ストレートで修士課程（現在の博士前期課程）の小児看護学教育研究分野に進學しました。小児看護学教育研究分野にとっても、看護学研究科にとっても、初めての留学生の院生であり、私が修業年限の2年間で修了できるよう、兼松先生はとても熱心にかかわってくださいました。

修士課程1年目の夏休みに、研究テーマに沿って、文献検討をしながら、当時の医学部附属病院小児科1型糖尿病専門外来で手書きのカルテを読み、研究対象者の選定作業もしました。現在は研究室にいても、簡単にインターネット接続で国内外の文献検索ができますが、当時は、和文文献は医学部の図書館で雑誌を調べ、外国文献は、事前に申し込みをした上で、図書館司書にMedlineで検索を依頼しました。正確な金額は覚えていませんが、文献の取り寄せにかかる単価もとても高かったです。検索の作業中、兼松先生はずっと同席してくださり、これはとても贅沢な学習経験でした。そのお陰で、修士課程1年目の夏休みが終わった頃には、既に研究の概念枠組みを定めることができました。

収集したデータの分析も、一方向だけでなくあらゆる可能性を検討し、データに一番相応しい統計的手法を用いて分析するように、詳しくご指導頂きました。このような兼松先生の学術に対する厳格な姿勢は、今でもはっきりと脳裏に焼き付いています。

留学生を一生活者として育てる親のような存在

平成元年当時、日本国内の看護学に関わる学会は、今の百花齊放のような状態ではなく、とても少なかったです。しかし、研究とは何か、現段階どんな研究が行われているかについて、もっと認識するように、医学の学会も含めて、兼松先生から積極的な参加を勧めて頂きました。開催地が遠方の場合は、留学生の私の負担になると心配して頂き、会場で、こっそりと旅費の一部を渡してくださいました。

日本の年度の区切りは4月から翌年の3月までですが、台湾は9月から翌年の8月までです。このため、修士課程修了後、台湾で就職するまでに半年弱の期間があります。その間の経済面を心配してくださった兼松先生は、台湾に帰るまでの数か月間、私を研究アシスタントとして雇用して頂き、短い期間でしたが、さらに、貴重な研究経験を積み重ねることができました。

現在、看護学研究科では、留学生を受け入れるために、日本語ができなくても入学できる国際プログラムが設けられています。留学生にとって、研究・専門の学習は最も重要な目的ですが、その前に日本という外国で生活する者であることは大切な視点だと思います。

学部の卒業研究からずっとご指導を受けた私にとって、兼松先生は、恩師であり、且つ日本留学中私を生活者として育てくれた親のような存在です。このような素晴らしい先生に出会い、その教えを受けることのできたことに、今でも感謝の気持ちでいっぱいです。

個人票の返送と記入について

個人票はすべての会員の方が返送してください。

個人票は、同窓会からのあらゆる連絡（たよりの発行、名簿の発送など）のための住所のもととなります。さらに、皆様から返送された個人票の情報を元に、看護学部卒業生・看護学研究科修了生の現在の就業状況を統計的に把握しています。これは、**卒業生・修了生の現在の活動状況を知る重要かつ唯一の資料**となっております。**住所変更をしていなくても、個人票の返送による会員データ管理は、毎年継続しておりますので必ず返送**して下さるようお願い申し上げます。

今年3月に卒業された方々も、住所に変更がなくても必ずご返送ください。

皆さまご多用のところとは存じますが、何卒ご理解・ご協力を賜りますようお願いいたします。

ご注意ください。

同窓会では、皆さまから集めた個人情報厳重に保管し、また名簿も信頼のおける業者に作成を依頼しており、こちらから個人情報が流出することは一切ありません。皆さまのお手元にある名簿の管理については充分にご注意いただきますようお願いいたします。古くなった名簿を破棄する場合には裁断（シュレッダ）するなどしてデータが万が一にも流出しないよう管理の徹底をお願いいたします。

個人票記入の手引き

☆ ご自分の個人票データについて、変更・訂正のある場合は、左側の変更・訂正事項記入欄に修正内容をご記入ください。

変更・訂正をご記入された方は、同封の個人情報保護シールを上貼して、情報をカバーし、ご返送ください。

☆ 勤務形態、設置主体、職種、職位は下記のコード表（コード表は、個人票の左側にもあります）から番号を選択し数字を記入してください。該当するものがない場合には、具体的に記してください。

☆ 現住所で連絡が取れないときのために、帰省先の住所をお尋ねしております。

☆ 勤務状況については、現在就業している方は「有」に、就業していない方は「無」に○をつけてください。

☆ 現在学生の方は最終学歴の「学校名」の欄に学校名を記し、（在学中）とお書きください。勤務を続けたまま学生をされている方（科目等履修も含む）は、勤務状況と学校名の両方のご記入をお願いいたします。

☆ 近況報告について、ご記入いただいてもたよりへの掲載を希望されない方は、右のチェック欄にチェックしてください。

☆ 名簿に連絡先の掲載を希望しない場合は、該当する訂正欄に「不掲載」とご記入ください。

個人票返送の締め切り 平成29年6月末日までに返送してください。

名簿購入のご案内



「平成28年度会員名簿」の購入をご希望の方は、下記の通り申し込んでください。

ただし、冊数には限りがあり、ご希望に沿えないことがあります。

1. 名簿購入希望について、同窓会名簿委員長に申し込む。連絡先：043-226-2452（看護学部学務係）
その際、同窓会会員であることがわかるよう、氏名、学籍番号をご連絡ください。もしくは、直接千葉大学看護学部同窓会までご連絡ください。
2. 同窓会会員であることが確認できた後、購入手続きをとらせていただきます。
3. 名簿の代金について
名簿は1冊**3,000円**です。 **代金の入金を確認後**、発送いたします。
4. せっかく代金を振り込まれても、以下の場合は**寄附金として処理**されますので、ご注意ください。
複数冊の名簿代を振り込まれた場合；名簿の購入は**お一人一冊**に限られています。

平成29年度

千葉大学大学院看護学研究科

教員紹介

専攻	講座	教育研究分野	専門領域	教授	准教授	講師	助教・助手	技術／事務補佐	
看護学	先端実践看護学	高度実践看護学	看護病態学	岡田 忍		小川 俊子		(技術専門職員) 西尾 淳子	
			小児看護学	中村 伸枝	佐藤 奈保		仲井 あや 下屋 総平		
			成人看護学	眞嶋 朋子	増島麻里子		渡邊 美和 楠 潤子		
		高齢社会実践看護学	老人看護学	正木 治恵	石橋みゆき		高橋 良幸 戸田由利亜	(特任准教授) 山下 裕紀 林 弥江	
	生活創成看護学	健康増進看護学	生体看護学	小宮山政敏	田中 裕二		雨宮 歩		
			リプロダクティブヘルス看護学	森 恵美	坂上 明子		青木 恭子 岩田 裕子 ★小坂麻衣	(特任准教授) 前原 邦江	
			健康管理看護学	北池 正	池崎 澄江				
		地域創成看護学	精神看護学			野崎 章子	館 祥平 時田 征人		
			地域看護学	宮崎美砂子	石丸 美奈		飯野 理恵 鈴木 悟子		
			訪問看護学	諏訪さゆり	辻村真由子				
	文化創成看護学	文化看護学	理論看護学	山本 利江		永田亜希子	阿部由喜湖 松田 知佳		
		専門職育成学	看護教育学	中山登志子				(技術職員) 山品 晴美	
			看護政策・管理学	看護管理学	(吉本 照子)				
					(酒井 郁子)				
	共同災害看護学	災害看護学	災害看護学		(特 任) 岩崎 弥生	(特 任) 伊藤 尚子			
看護システム管理学	看護システム管理学	病院看護システム管理学		手島 恵		飯田貴映子			
		地域看護システム管理学		吉本 照子	杉田由加里				
		ケア施設看護システム管理学		酒井 郁子		(特 任) 黒河内仙奈			
附属看護実践研究指導センター	ケア開発研究部		野地 有子	黒田久美子	赤沼 智子		(特任研究員) 炭谷 大輔		
	政策・教育開発研究部		和住 淑子	錢 淑君	今村恵美子				
附属専門職連携教育研究センター					(特 任) 井出 成美	(特 任) 高橋 在也	■馬場由美子	(特任研究員) 山田 響子	
外部資金等講座				特任教授	特任准教授	特任講師	特任助教	特任研究員／事務補	
看護学教育CQⅠモデル開発と活用推進					吉田 澄恵				

* 下線…正会員 ★…産休・育休中 ■…特命助手 ()の名前…兼任者

平成29年度 千葉大学大学院看護学研究科説明会案内

●博士前期・後期課程(看護学専攻) ●5年一貫性博士課程(共同災害看護学専攻) ●修士課程(看護システム管理学専攻)対象

日時：平成29年5月20日(土)

集合時間 12:50 開催時間 13:00

会場：看護学部 講義・実習室(2階)

内容：(1)看護学研究科の概要と特色

(2)各教育研究分野等教授紹介

(3)カリキュラムの説明

(4)大学院生からのメッセージ

(5)領域別質問コーナー、大学院生との交流

問い合わせ・申込先

参加希望の方は千葉大学看護学部大学院担当宛申し込んでください。
申し込み方法は次の事項を記載して、ハガキ、FAX、Eメール等でお送りください。最終締め切りは、平成29年5月18日(木)17:00です。
お名前・ご住所・電話番号・Eメール・決定していれば志望教育研究分野(専門領域)を記載の上、大学院説明会参加希望と明記してください。

問い合わせ先

〒260-8672 千葉市中央区玄阜1-8-1 看護学部大学院学務係
TEL 043-226-2450 FAX 043-226-2382
Eメール：tae5667@office.chiba-u.jp
千葉大学看護学部ホームページ：http://www.n.chiba-u.jp/

※千葉大学看護学部は玄阜キャンパスにあります。

J R 千葉駅又は京成千葉線の京成千葉駅下車、J R 千葉駅東口⑦番バス乗り場から京成バスを利用約15分、「千葉大学医学部入口」下車徒歩1分